人口減少過程における伝統的建造物群保存地区の市民活動及び意識の変化

－函館元町末広町の歴史的町並みと旧函館区公会堂の修繕を取り上げて

大　橋　美　幸

Ⅰ．はじめに

函館元町末広町は伝統的建造物保存地区に決定してから30年近くが経過している。バブル期のマンション問題に端を発した市民運動は、独自の条例制定、チャリティイベントによる修繕費助成等の基金の設定等につながり、公益信託による市民活動の助成、ミニコンサート等による歴史的建造物の活用等を実施してきた。

現在、問題になっているのは人口減少による空き家・空き地、観光スポットの一つである旧函館区公会堂の老朽化による修繕と一層の活用である。その中で、市民活動は役割を変えて、町のにぎわいを取り戻すための取り組みに軸足を移している。

函館市担当課、各種市民団体に対するインタビュー及び資料収集、地元市民と観光客に対する意識調査等を行った。これまでの経過をまとめ、今後の展開を考察する。

Ⅱ．函館の伝統的建造物群保存地区の経緯

１．函館元町末広町

函館は1854年、日米和親条約により下田と合わせて開港された。その後、函館山のすそ野の元町・末広町付近には、アメリカ、ロシア、イギリス等と

の修好通商条約に基づいて、教会や領事館等がつくられた。周辺には洋風や和洋折衷の住宅が増え、異国情緒が感じられる町並みが形成された。

町並みの保存のために、1988年に独自の函館市西部地区歴史的景観条例を制定し、14.5ha、伝統的建造物89件の伝統的建造物群保存地区を決定した。1990年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

当時、バブル期であり、函館山からの眺望と歴史的町並みを好んで高層マンションやホテルが次々と建設され、住民の反対運動が盛り上がりを見せた。その後、バブル崩壊によりマンション建設等は行われなくなったが、買いあげられた土地が空き地のまま残されることとなった[1)]。

伝統的建造物群保存地区の中心は旧函館区公会堂と函館ハリストス正教会復活聖堂、金森倉庫群であり、観光地となっている。旧函館区公会堂については後述する。函館ハリストス正教会は、函館のロシア正教会であり、多くの鐘を両手両足でつく鐘の音が有名である。金森倉庫群はレンガ造りの元・貿易倉庫であり、改修後、飲食店や物販店となっている。

函館市では1995年に景観保全の範囲を市内全域に広げるため、伝統的建造物群保存地区を含む函館市都市景観条例を制定し、2004年に景観法が施行されたことを受けて、2008年に景観法に基づく条例に改正している。これに基づいて、歴史的建造物の修繕、町並みの規制等を行っている。

2015年からは伝統的建造物群保存地区以外の周辺地域の道路沿いに、一定の洋風や和洋折衷様式で建物を購入及び新築した場合に奨励金がある制度もはじめられており、ワインショップ等がオープンしている[2)]。

歴史的建造物の外観を維持するための修繕費用は行政が補助しているが、歴史的建造物である洋風や和洋折衷様式の住宅は、気密性に乏しく、居住環境が必ずしも良くない。居住環境の改善のための補助は民間から寄付を集めて基金として利用している[3)]。毎年２～３件、200～300万円程度の補助が行われている[4)]。

空き家については2012年から解体補助を行っており、2015年から倒壊の危

険性がある家屋等について解体の勧告、代執行が行われている。

人口は2016年１月末現在で元町と末広町を合わせて2043人、10年前の８割となっている[5]【図2.1】。周辺を合わせて、函館市都市計画条例で一部でも都市景観形成地域に指定されている７町の合計で見ると6972人、10年前の2/3になっている[5]。2012年の函館市調査で元町と末広町を含む周辺７町の空き家は235戸であり[6]、2011年の市民団体による調査で空き家の所有者の３割が解体を考えていた[7]。前述した解体補助等により解体が進められている。

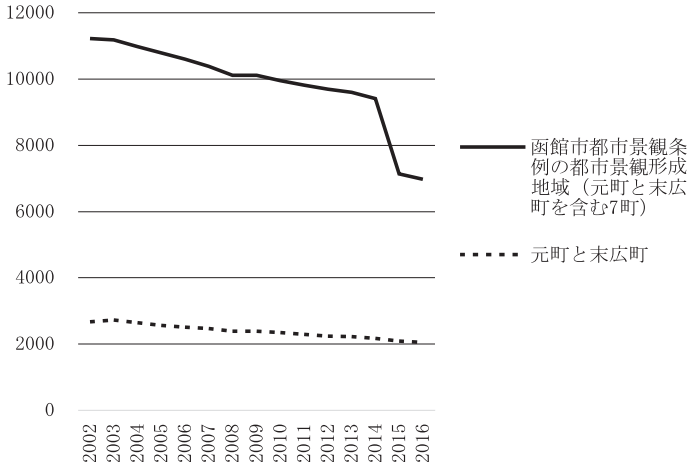


図2.1　元町末広町と周辺人口の変化（函館市人口[5]より筆者作成）

2. 旧函館区公会堂の修繕等

旧函館区公会堂は1910年に建設されたコロニアルスタイルの建物で、外観は左右対称で水色と黄色になっている。函館では市街の大半を巻き込む大火が何度もあり、1907年の大火で失われた函館区民の集会所を区民の有志が寄付を集めて再建したものである。本館が木造２階建、延べ1761㎡、付属棟が木造平屋、延べ138㎡、渡り廊下でつながっている。地方の鹿鳴館として、貴賓室や大広間等を備え、宿泊室もあり、大正天皇が皇太子時代に宿舎として

使用したこともある。1974年に国の重要文化財に指定されている。

1980年から３年間をかけて大規模修繕を行い、白とピンクの外観から当時の色を再現。現在は観光地になっており、年間入場者数は15万6000人程度である[8)]。函館の観光入込客数500万人の３％程度である。当時の衣装を貸し出して写真撮影をしたり、週１回程度のミニコンサート等が行われている[8)]。

建物の老朽化により修繕が必要となっており、耐震診断の結果、大規模な修繕が必要という結果が出された。現在、修繕とともに活用方法の見直しの検討が進められている。

修繕と活用で話題となっている歴史的建造物は他にも複数あり、例えば、旧ロシア領事館は文化財指定に向けた復元のために大規模修繕が必要とされており、現在、民間会社への説明や見学会が行われている[9)]。また、函館市公民館では、市民団体が歴史的建物の保存活動を展開、理解を得るためのミニコンサート等を継続して行い、継続的に活用できるよう修繕が行われた[10)]。旧函館区公会堂の修繕はこれらの取り組みの一つである。

３．これまでの市民活動との関係

元町や末広町周辺の歴史的景観を守る市民活動の歴史は古く、1978年、旧北海道庁函館支庁庁舎を別の地域の観光スポットへ移転する話をきっかけに「函館の歴史的風土を守る会」が立ち上がり、保存運動を展開した。その後のマンション問題に端を発する函館景観条例につながる運動の嚆矢である。現在は、歴史的建造物の表彰や、前述した歴史的建造物の居住環境改善の補助を行う基金について、寄付を募るチャリティイベントを実施している[11,12)]。

空き地・空き家対策としては、2003年から市民団体「はこだて街なかプロジェクト」が移住者向けの相談窓口を設置、空き家の掃除、空き地に花を咲かせるプロジェクト、ワークショップ等を行ってきた。空き家の解体相談に訪れた人が利活用の提案を受けて、道外からの移住者に家を売却したり、移住者に空き家を紹介して店舗にリニューアルする等の例は少なくない[7,13)]。

移住については、近年、市民団体が元町や末広町周辺で移住体験に使用する空き家を募り、移住希望者とマッチングする「函館移住計画」を実施している[14)]。

市民活動を助成する取り組みもあり、1993年にトヨタ財団からの研究奨励金でまちづくり公益信託が設定された。活動を公募し、選定、助成とともに助言を行う仕組みである。「函館からトラスト」として町並み保全の市民活動に助成を行ってきて、2014年に資金の取り崩しによる事業を終了している[15,16)]。

Ⅲ．近年のにぎわいを取り戻すための市民活動

１．概要

毎年12月に、伝統的建造物群保存地区の金森倉庫群で「はこだてクリスマスファンタジー」が行われる。観光雑誌等にも取り上げられ、旅行会社でツアーが販売される観光イベントであり、来場者数50万人とされている。カナダの姉妹都市から送られる巨大モミの木のイルミネーションが中心であり、スープバー、パレード、コンサート、点灯式と花火、入院中の子どもにクリスマスプレゼントを届けるサンタラン等、多彩なプログラムが実施される[17)]。1998年当初の主催は函館青年会議所であり、その後、各種団体を巻き込んで、運営されている[18)]。

他にも、伝統的建造物群保存地区の旧函館区公会堂の前にある元町公園で８月に「はこだて国際民俗芸術祭」が開催されている。世界各国のパフォーマーによる野外ライブ等が行われ、世界の料理と雑貨が販売される。来場者数は3000人程度である。2015年の８日間のプログラムには大道芸や民族芸能、美術品の展示等を含めて35団体が名をつらねた。2008年に市民有志によってはじめられ、末広町に事務所を持つ団体が企画・制作を行っている[19,20)]。

「バル街」は５枚綴りのチケットを持って、伝統的建造物群保存地区周辺のマップにある飲食店を食べ歩くイベントで、2004年から年２～３回行われている。当初25店ではじめられたバル街は、2016年の春で74店を数える。フレ

ンチやイタリアンだけでなく和食や喫茶店、ラーメン屋等も参加しており、地元店だけでなく歴史的建造物等を利用してイベント出店も行われている。地元の有志がはじめて、実行委員会で継続している。毎回の利用者数は4500人にのぼり、商店街活性化の一つの手法として各地で取り入れられているほどである[21,22]。2014年に利用者調査を行ったので後述する。

「バル街」のような地元の店をつなぐ有志によるイベントとして近年「元町FOOD祭り」がはじまっている。2015年から伝統的建造物群保存地区のフリースペースで、毎月、駅弁、雑煮、スープとパン等のようにテーマを変えて複数の店から新規メニューを創作出品して販売している。その日のみの商品と店主の遊び心が楽しめるとして多くの人を集めている[23]。

加えて、近年、伝統的建造物群保存地区及び周辺で映画のロケの誘致に力を入れている。2003年に函館市が函館商工会議所、青年会議所等と合同でフィルムコミッションを立ち上げる以前から、市民の手でロケ地情報の提供、ロケの同行・案内、エキストラの手配等が行われてきた[24,25]。

背景には、函館港イルミナシオン映画祭がある。毎年12月、伝統的建造物群保存地区の金森倉庫群等を利用して、３日間をかけて新人監督作品を中心に多くの映画が上映される。1995年にはじまり、翌年から函館を舞台としたシナリオの募集が行われ、多くの受賞作が映画化されている[17]。「函館を舞台とした映画をつくるための映画祭」としてボランティアで運営されている[26,27]。

２．バル街を取り上げて

（１）調査方法

2014年４月、バル街で来街者アンケートを行った。調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、居住地）、知った経緯、同行者、バル街の魅力、普段の来街頻度等である。

（２）回答者基本属性

回答者数は200人。男性89人（45.2％）、女性108人（54.8％）**【図3.1】**。半数ず

つくらいである。

19歳以下６人(3.0%)、20代71人(35.7%)、30代52人(26.1%)、40代35人(17.6%)、50代21人(10.6%)、60代10人(5.0%)、70歳以上４人(2.0%)【図3.2】。20代が最も多く、30代が続く。

居住地は函館市内143人(80.3%)、函館以外北海道内28人(15.7%)、北海道以外４人(3.9%)【図3.3】。函館市民が８割であった。

これまでにバル街に来た回数は、はじめて102人(56.4%)、２～３回目66人(36.5%)、４回以上13人(7.2%)である【図3.4】。リピーターが４割以上いる。

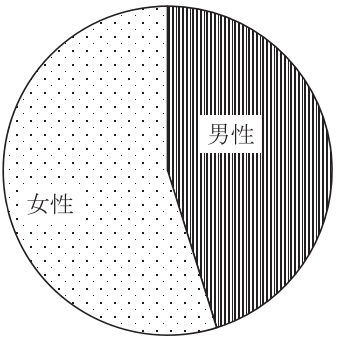


図3.1　回答者基本属性（性別）

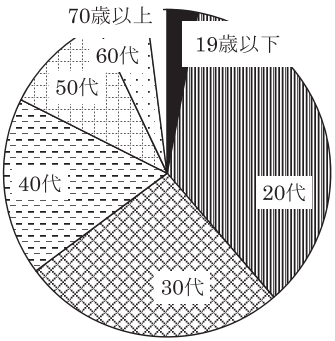


図3.2　回答者基本属性（年代）

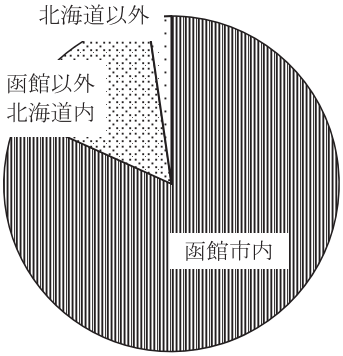


図3.3　回答者基本属性（居住地）

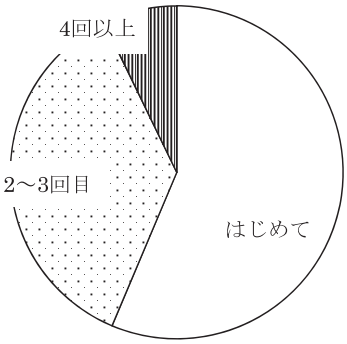


図3.4　バル街に来た回数

（３）バル街を知った経緯、移動手段、同行者

バル街を知った経緯は190人の複数回答で、ポスター41人(21.6%)、新聞11人(5.8%)、フリーペーパー・タウン情報誌32人(16.8%)、テレビ・ラジオ１人(0.5%)、インターネット17人(8.9%)、家族や友人97人(51.1%)である**【図3.5】**。家族や友人が半数であり、ポスター、フリーペーパー・タウン情報誌の順である。口コミや地元情報が多いことがわかる。

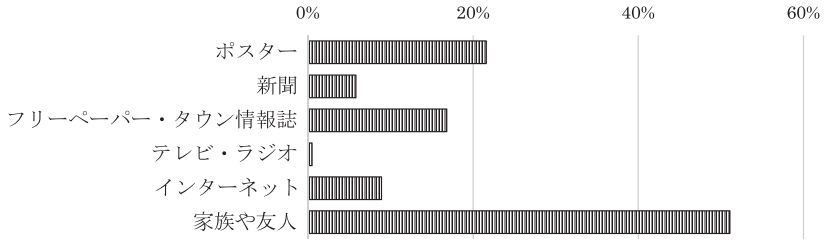


図3.5　バル街を知った経緯

同行者は、一人で来た６人(3.4%)、家族と61人(34.5%)、友人と109人(61.6%)、会社や学校等団体１人(0.6%)**【図3.6】**。友人と来ている人が６割であり、家族が続く。バル街は友人や家族と一緒に楽しむ場になっている。

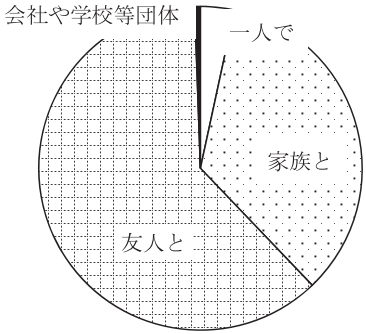


図3.6　同行者

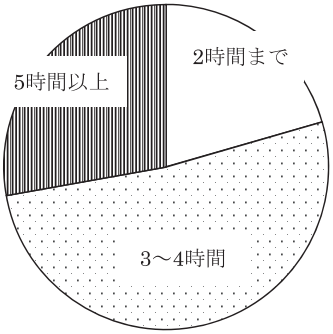


図3.7　予定滞在時間

（４）滞在時間、利用店舗数

到着時刻は、午後４時まで38人(20.9％)、午後４時から７時まで116人(63.7％)、午後７時以降28人(15.4％)。６割が午後４時から７時までに到着している。

予定滞在時間は、２時間まで31人(20.5％)、３～４時間78人(51.7％)、５時間以上42人(27.8％)**【図3.7】**。３～４時間が半数であり、５時間以上も３割ある。複数の店舗をめぐるために滞在時間が比較的長くなっている。

予定利用店舗数は、３店舗19人(14.4％)、４店舗19人(14.4％)、５店舗90人(68.2％)、６店舗以上４人(3.1％)**【図3.8】**。チケットは５枚綴りであり、残ったチケットは「あとバル」等で利用することができるが、当日使いきる予定の人が７割である。それ以上使う人が数％おり、複数のチケット綴りが購入されている。

予定利用店舗数が５店舗である人の滞在予定時間を見ると、２時間まで17人(20.5％)、３～４時間49人(59.0％)、５時間以上17人(20.5％)。予定利用店舗数よってあまり差は見られない。

予定利用店舗数が５店舗である人に新しい店舗の開拓について尋ねると、すべてこれまでに行ったことがある店に行く２人(2.7％)、一部これまでに行ったことがない店に行く22人(29.7％)、すべてこれまで行ったことがない店

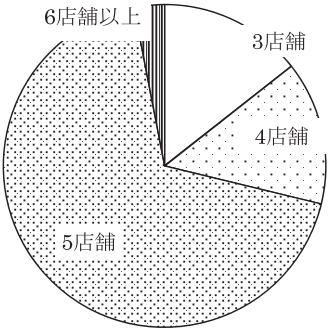


図3.8　予定利用店舗数

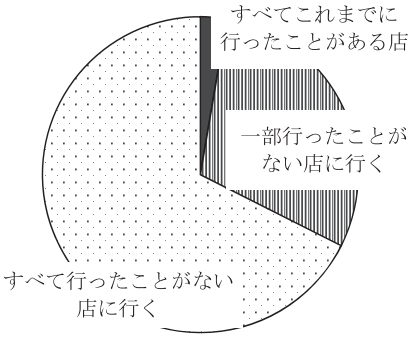


図3.9　５店舗を回る予定の人の新しい店の開拓

に行く50人(67.6%)【図3.9】。７割近くの人がすべてこれまで行ったことがない店に行く予定であり、バル街が新しい店を訪れる機会となっている。

（５）バル街の魅力、店を回る前の情報収集方法

バル街の魅力は196人の複数回答で、「街歩きができる」68人(34.3%)、「イベントとして楽しい」82人(41.4%)、「家族や仲間と一緒に楽しめる」46人(23.2%)、「チケット制が良い」24人(12.1%)、「おしゃれなイメージ」39人(19.7%)、「定期的にある」８人(4.0%)、「新しい店の開拓ができる」22人(11.1%)、「いろいろな店を試してみられる」23人(11.6%)、「この地区がにぎわう・活性化される」９人(4.5%)、「観光につながりそう」12人(6.1%)【図3.10】。イベントの楽しさを評価している人が４割であり、３割は街歩きをあげている。歴史的街並みの散策が魅力に感じられていることがわかる。２割が家族や仲間と一緒に楽しめることをあげており、１割がチケット制が良く、いろいろな店を試してみることができ、新しい店の開拓ができるとしている。おしゃれなイメージをあげているのは２割である。

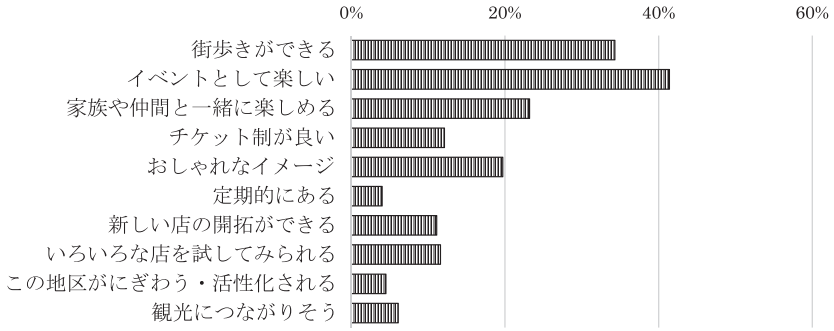


図3.10　バル街の魅力

これまでにバル街に来た回数で分けて見ても、差は見られない。

店を回る前の情報収集方法は195人の複数回答で、チケットと一緒にもらえるマップ裏面にある店の紹介121人(62.1%)、事務局に書きだされるメニュー

表示23人(11.8%)、バル街専用サイト17人(8.7%)、家族や友人43人(22.1%)、特にせず何気なく立ち寄る15人(7.8%)【図3.11】。マップ裏面にある店の紹介が６割であり、マップが有効に利用されている。

これまでにバル街に来た回数で分けて見ても、差は見られない。

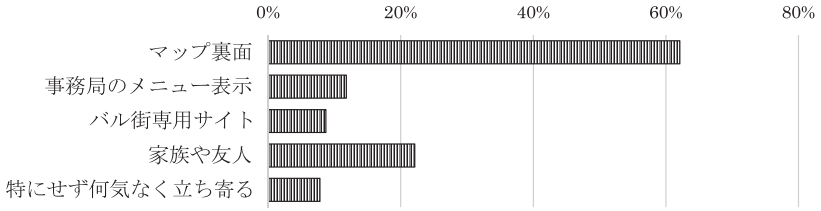


図3.11　店を回る前の情報収集

（６）普段の来街頻度・目的

函館市民に普段の来街頻度を尋ねると、今回がはじめて11人(7.9%)、年数回59人(42.1%)、月１回30人(21.4%)、月２～３回25人(17.9%)、週１回２人(1.4%)、週２～３回０人(0.0%)、ほぼ毎日０人(0.0%)、この地区に住んでいる13人(9.3%)**【図3.12】**。年数回が４割、月１回が２割であり、函館市民もあまり訪れていない。

函館市民に普段の来街目的を尋ねると127人の複数回答で、「観光・散策」36人(28.3%)、「日曜必需品の買物」５人(3.9%)、「その他の買物」33人(26.0%)、「食事(バル街含む)」44人(34.6%)、「通勤・通学」０人(0.0%)、「公共施設の利用、習い事・趣味のサークル」３人(2.4%)、「娯楽施設利用」４人(3.1%)、「通院・銀行利用など」２人(1.6%)、「この地区に住ん

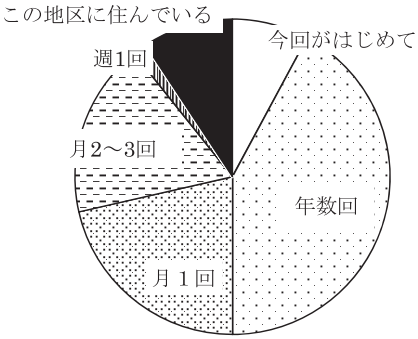


図3.12　函館市民の普段の来街頻度

でいる」12人(9.4%)【図3.13】。「食事(バル街含む)」が最も多く、「観光・散策」、「その他の買い物」の順である。

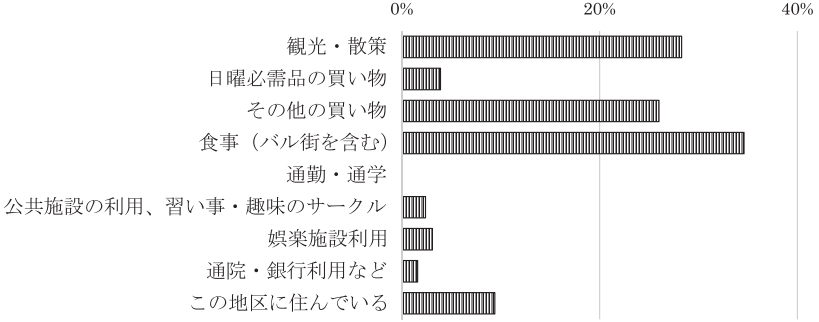


図3.13　函館市民の普段の来街目的

函館市民に、今後、来る頻度の変化を尋ねると、増える23人(17.7%)、変わらない107人(82.3%)、減る０人(0.0%)【図3.14】。増えるが２割あり、理由として「おいしい店がたくさんあったから」、「街の新たな魅力を発見できた」があがっていた。

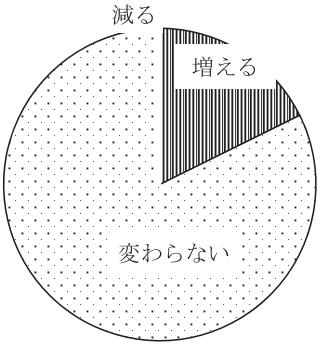


図3.14　函館市民の今後の来街頻度の変化

（７）まとめ

函館市民の来街頻度は「年数回」４割、「月１回」２割とあまり多くない。

バル街はイベントの楽しさ、歴史的町並みの街歩き等が魅力に感じられている。バル街で店を回る前に、チケットと一緒にわたされるマップ裏面の店の紹介等で情報収集されており、いろいろな店を試したり、新しい店を開拓できることを評価している人もいる。バル街の後に、来街頻度が増えると答えた人が２割あり、「おいしい店がたくさんあった」等、意見があがっている。

バル街が普段あまり伝統的建造物群保存地区及び周辺を訪れない函館市民

にとって、新しい店や新たな魅力を発見する機会になり、再訪に役立っていることがわかる。

Ⅳ．住民の意識

１．調査方法

2016年５月、函館の高齢者大学の受講生に対してアンケートを行った。高齢者大学は60歳以上を対象としており、５月から11月、週１回、20数回の講義が行われる。伝統的建造物群保存地区周辺の函館公民館と、それ以外の場所にある函館市民会館で行われており、函館公民館の受講者には当該地区の居住者を含んでいる。このため、当該地区「居住者」、「日常的利用者」、「それ以外の市民」に分けて集計した。加えて、一定程度の「居住者」の回答者数を確保するため、当該地区の町内会に依頼して60歳以上の居住者にアンケートを行った。当該地区「居住者」として一緒に集計した。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代）、伝統的建造物群保存地区及び都市景観条例の認知度、元町や末広町周辺の10年前と比べた変化、歴史的景観を守る市民活動への参加、旧函館区公会堂の一層の活用に向けた意見等である。

2. 回答者基本属性

「居住者」63人、「日常的利用者」171人、「それ以外の市民」194人である。

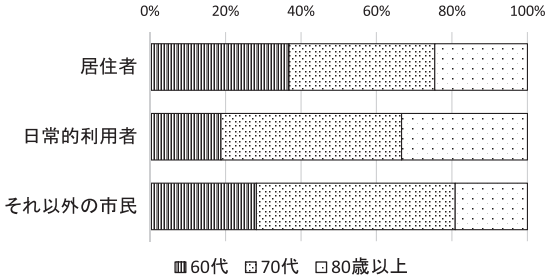
性別はいずれも女性が多くなっている**【図表4.1】**。年代は全員60代以上で、いずれも70代が中心である**【図表4.2】**。

なお、居住者の居住年数は19年以下10人（16.4％）、20年以上50年未満30人（49.2％）、50年以上21人（34.4％）。住まいの種類は、伝統的建造物（所有）２人、伝統的建造物（賃貸）２人、それ以外の一戸建（所有）29人、それ以外の一戸建（賃貸）３人、マンション等（所有）12人、マンション等（賃貸）５人。今後の予定は「住み続けたい」49人（84.5％）、「住み続けたくない」２人（3.4％）、「どちらとも言えない」７人（12.1％）。85％が住み続けたいと思っている。

伝統的建造物に住んでいる４人の今後の予定は全員が「どちらとも言えない」である。

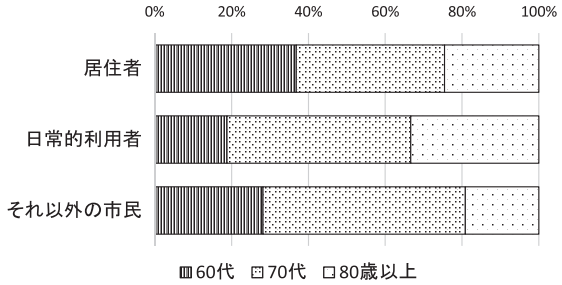
図表4.1　回答者基本属性（性別）

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
性別	男性	22	41	56	119
	女性	40	121	132	293
合　計		62	162	188	412



図表4.2　回答者基本属性（年代）

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
年齢	60代	21	31	53	105
	70代	22	79	99	200
	80歳以上	14	55	36	105
合　計		57	165	188	410



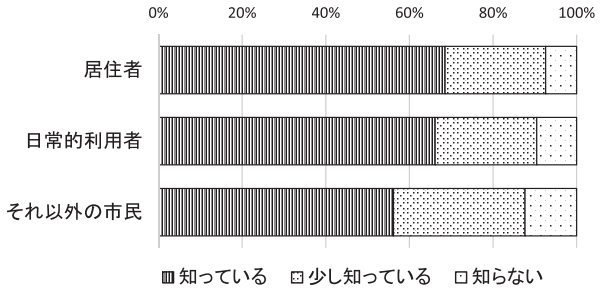
3．函館市都市景観条例の認知度

「函館市では景観条例で町並み保全のための基準を定めたり、歴史的建造物の支援を実施していること」を知っているか尋ねたところ、知っている227人(61.7%)、少し知っている102人(27.8%)、知らない39人(10.6%)。6割が知っており、少し知っていると合わせると9割ある。

居住者や日常的利用者に比べて、それ以外の市民で多少「知っている」人が少なくなるがさほど変わらない**【図表4.3】**。

図表4.3　景観条例の認知度

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
景観条例の認知度	知っている	37	90	100	227
	少し知っている	13	33	56	102
	知らない	4	13	22	39
合　計		54	136	178	368



4．伝統的建造物群保存地区の10年前と比べた変化

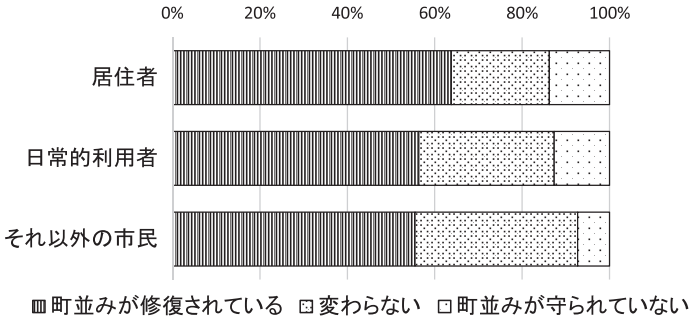
歴史的景観について「町並みが修復されている」199人(57.2%)、「変わらない」113人(32.5%)、「町並みが守られていない」36人(10.3%)。「町並みが修復されている」が6割近い。

居住者、日常的利用者、それ以外の市民で差は見られない**【図表4.4】**。

観光客や店の数について「増えている」190人(56.2%)、「変わらない」104人(30.8%)、「減っている」44人(13.0%)。「増えている」が半数を超えている。

図表4.4　伝統的建造物群保存地区の10年前と比べた変化「歴史的景観について」

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
歴史的景観について	町並みが修復されている	37	71	91	199
	変わらない	13	39	61	113
	町並みが守られていない	8	16	12	36
合　計		58	126	164	348



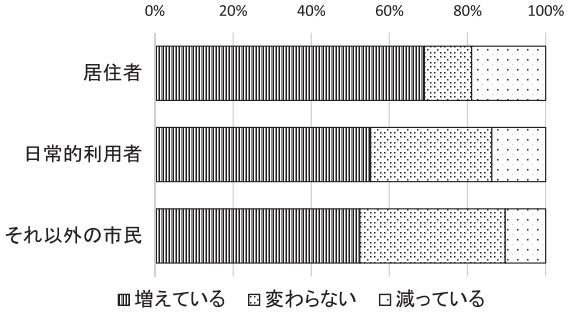
居住者、日常的利用者、それ以外の市民を見ると、居住者で若干「増えている」が多くなっている**【図表4.5】**。

買物や交通の便利さについて「便利になった」50人(15.6%)、「変わらない」223人(69.5%)、「不便になった」48人(15.0%)。変わらないが７割である。

居住者、日常的利用者、それ以外の市民を見ると、居住者で若干「便利になった」が多くなっている**【図表4.6】**。

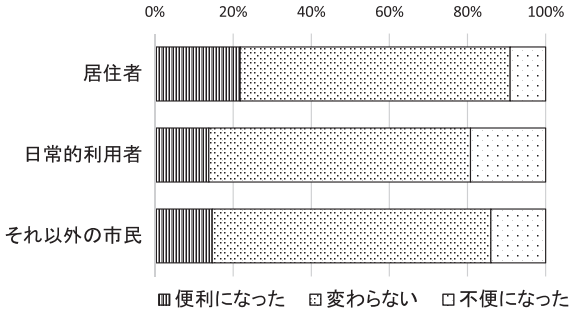
図表4.5　伝統的建造物群保存地区の10年前と比べた変化「観光客や店の数について」

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
観光客や店の数	増えている	40	64	86	190
	変わらない	7	36	61	104
	減っている	11	16	17	44
合　計		58	116	164	338



図表4.6　伝統的建造物群保存地区の10年前と比べた変化「買物や交通の利便性について」

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
買物や交通の便利さ	便利になった	12	15	23	50
	変わらない	38	73	112	223
	不便になった	5	21	22	48
合　計		55	109	157	321



５．伝統的建造物群保存地区近郊で今後期待すること

伝的建造物群保存地区近郊で今後期待することは、336人の複数回答で「歴史的な町並みや建物の保全」142人(42.3％)、「道路・公園等の整備」80人(23.8％)、「観光施設の充実」72人(21.4％)、「商店・飲食店の充実」58人(17.3％)、「病院・金融機関等の充実」58人(17.3％)、「空き家・空き地の解消」180人(53.6％)、「公共交通機関の充実」79人(23.5％)、「駐車場の充実」100人(29.8％)、「お祭り・イベントの充実」49人(14.6％)、「特にない」11人(3.3％)。「空き家・空き地の解消」が半数を超えており、「歴史的な町並みや建物の保全」等が続く。人口減少による「空き地・空き家の解消」は優先課題として考えられている。

居住者で、道路・公園等の整備が比較的多くなっている。観光施設の充実、公共交通機関の充実、駐車場の充実は、日常的利用者やそれ以外の市民で比較的多くなっていた**【図表4.7】**。

６．歴史的町並みを守るための市民活動への参加

歴史的町並みを守るための市民活動に「現在、参加している」13人(4.0％)、「参加したい」115人(35.3％)、「参加したくない」198人(60.7％)。現在、参加している人が数％おり、参加したい人が1/3である。現在、参加している人の内容は道路の掃除等である。

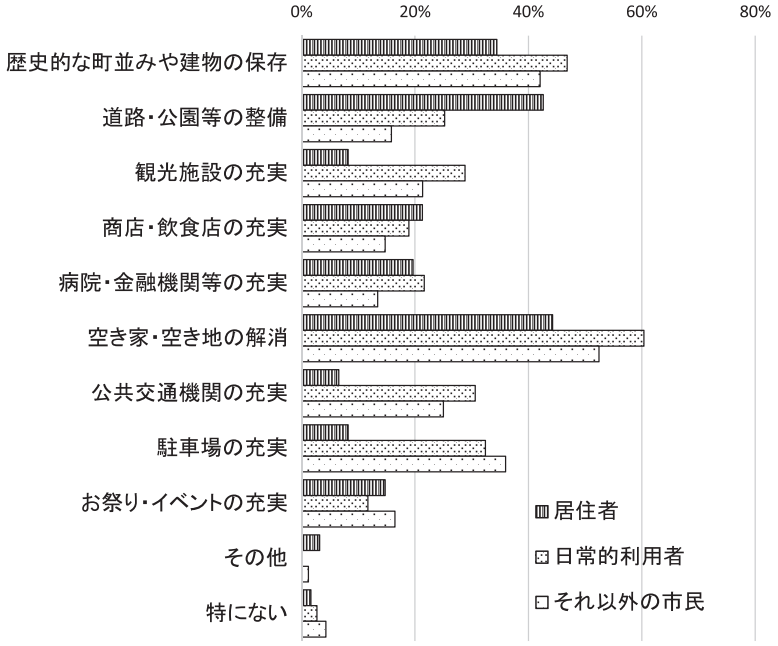
居住者で現在、参加している人が比較的多くなっている**【図表4.8】**。

７．旧函館区公会堂の一層の活用に向けた意見

旧函館区公会堂の大規模修繕を説明した上で、一層の活用のためにあれば良いものを尋ねると、338人の複数回答で、「カフェ付きの売店」163人(48.2％)、「有名料理店と提携した食事の提供」91人(26.9％)、「会議や結婚式開催等の貸室」45人(13.3％)、「事前予約による宿泊」32人(9.5％)、「バラ園等の庭園」110人(32.5％)、「礼服での旗の掲揚等の日課の公開」18人(5.3％)、「特にな

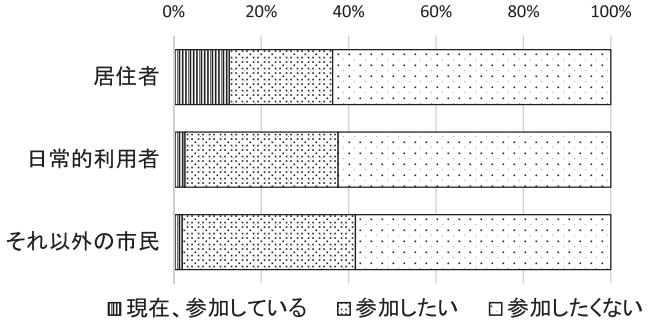
図表4.7　伝統的建造物群保存地区近郊で今後期待すること

		区分			合計
		居住者（n=61）	日常的利用者（n=111）	それ以外の市民（n=164）	
西部地区に今後期待すること	歴史的な町並みや建物の保存	21	52	69	142
	道路・公園等の整備	26	28	26	80
	観光施設の充実	5	32	35	72
	商店・飲食店の充実	13	21	24	58
	病院・金融機関等の充実	12	24	22	58
	空き家・空き地の解消	27	67	86	180
	公共交通機関の充実	4	34	41	79
	駐車場の充実	5	36	59	100
	お祭り・イベントの充実	9	13	27	49
	その他	2	0	2	4
	特にない	1	3	7	11



図表4.8　歴史的町並みを守るための市民活動への参加

		区　分			合　計
		居住者	日常的利用者	それ以外の市民	
歴史的町並みを守るための市民活動への参加	現在、参加している	7	3	3	13
	参加したい	13	41	61	115
	参加したくない	35	73	90	198
合　計		55	117	154	326



い」43人(12.7%)。「カフェ付きの売店」が半数近く、「バラ園等の庭園」、「有名料理店と提携した食事の提供」の順である。

バラ園等の庭園は、居住者以外でやや多くなっている。他に差は見られない**【図表4.9】**。

８．まとめ

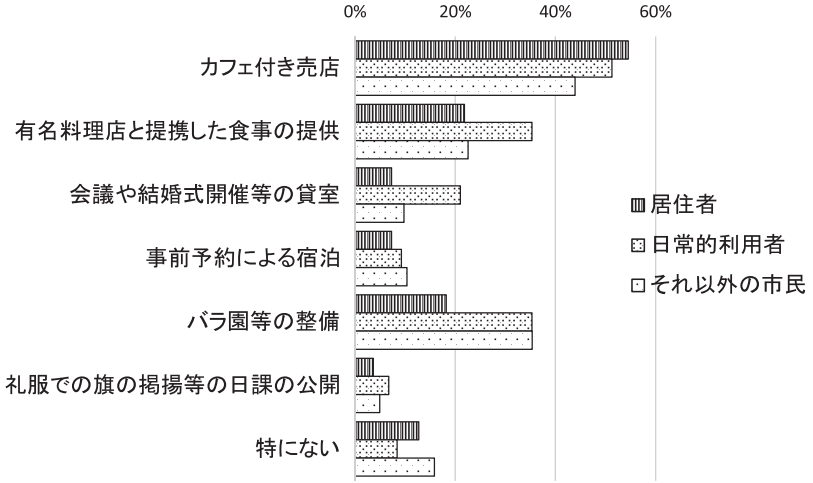
今回の調査は60歳以上の函館市民を対象としており、函館の高齢者の意識を反映したものになっている。

景観条例は伝統的建造物群保存地区の居住者や日常的利用者に関わらず、多くの函館の高齢者に浸透している。

伝統的建造物群保存地区は10年的と比べて、歴史的町並みが修復され、観光客や店の数が増え、買物や交通の利便性は変わらないと考えられている。

図表4.9　旧函館区公会堂の一層の活用に向けてあれば良いと思うもの

		区分			合計
		居住者（n=55）	日常的利用者（n=119）	それ以外の市民（n=184）	
旧函館区公会堂の活用のためにあれば良いと思うもの	カフェ付き売店	30	61	72	163
	有名料理店と提携した食事の提供	12	42	37	91
	会議や結婚式開催等の貸室	4	25	16	45
	事前予約による宿泊	4	11	17	32
	バラ園等の整備	10	42	58	110
	礼服での旗の掲揚等の日課の公開	2	8	8	18
	特にない	7	10	26	43



肯定的な印象が持たれており、伝統的建造物群保存地区の居住者や日常的利用者に関わらず、多くの函館の高齢者に共通した認識になっている。

伝統的建造物群保存地区近郊で今後期待するものとして、空き地・空き家の解消、歴史的な町並みや建物の保全、道路・公園等の整備等があげられている。人口減少の中で空き地・空き家問題をあげる人は多い。

特に居住者で、道路・公園等の整備が多くなっている。

他方で、歴史的町並みを守る市民活動に数％の人が参加しており、1/3が参加したいと思っている。現在、参加している人は道路清掃等をしており、前述した伝統的建造物群保存地区近郊に期待するもので居住者に比較的多い「道路･公園等の整備」に含まれる。これまでの参加者だけでなく、参加したい人が参加できるように窓口を広げ、自らの手で解決が図られていくことが望まれる。

旧函館区公会堂の修繕にあたっては、「カフェ付きの売店」、「有名料理店と提携した食事の提供」、「バラ園等の庭園」等が望まれており、地元の高齢者による普段使いが期待される。

Ⅴ．観光客の意識

１．調査方法

2016年５月、伝統的建造物群保存地区の金森倉庫群付近で、観光客に対する街頭アンケートを行った。

調査項目は①回答者基本属性（性別、年代、居住地）、②函館の伝統的建造物群保存地区の認知度・知るために利用したいもの・歴史的町並みを守るための活動への参加意向、③函館に限らず各地の伝統的建造物群保存地区への旅行意向・歴史的町並みに行く目的・各地の歴史的町並みを守るためにしたことがあるボランティア等、④旧函館区公会堂の利用・一層の活用のためにあれば良いと思うものである。

居住地別に函館近郊の南北海道（渡島・檜山管内の函館以外の１市16町）、それ以外の北海道、東北、関東に分けて集計を行った。

２．回答者基本属性

回答者数は南北海道43人、それ以外の北海道73人、東北43人、関東48人、計207人。

男性107人(51.9％)、女性99人(48.1％)。居住地別に見ると、いずれも男女

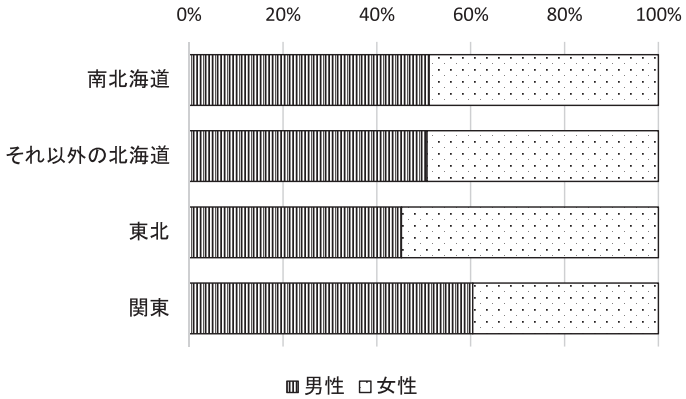
半数ずつくらいである【図表5.1】。

19歳以下23人(11.6%)、20代27人(13.6%)、30代38人(19.1%)、40代43人(21.6%)、50代35人(17.6%)、60代27人(13.6%)、70歳以上６人(3.0%)。幅広い年代にわたっている。居住地別に見ると、南北海道、それ以外の北海道でやや若年層が多くなっている【図表5.2】。

函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数は、「今回はじめて」70人(35.5%)、「２～３回目」56人(28.4%)、「４回以上」71人(36.0%)。居住地別に見ると、南北海道、それ以外の北海道で「４回以上」が半数近いが、「今回はじめて」も３～４割ある。東北、関東は「今回はじめて」が４割である【図表5.3】。

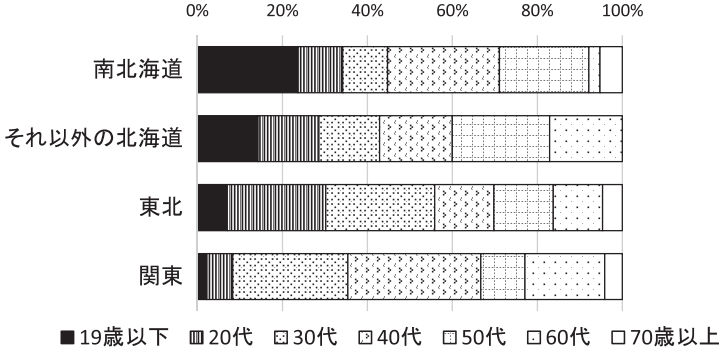
図表5.1　回答者基本属性（性別）

		性別		合計
		男性	女性	
居住地	南北海道	22	21	43
	それ以外の北海道	37	36	73
	東北	19	23	42
	関東	29	19	48
合計		107	99	206



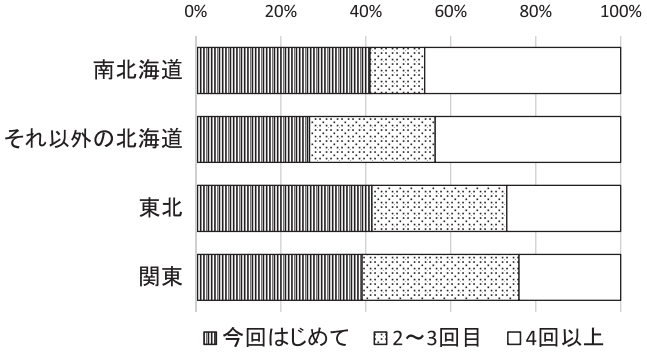
図表5.2　回答者基本属性（年代）

		年　代							合計
		19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
居住地	南北海道	9	4	4	10	8	1	2	38
	それ以外の北海道	10	10	10	12	16	12	0	70
	東北	3	10	11	6	6	5	2	43
	関東	1	3	13	15	5	9	2	48
合　計		23	27	38	43	35	27	6	199



図表5.3　函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数

		これまでに来た回数			合　計
		今回はじめて	2～3回目	4回以上	
居住地	南北海道	16	5	18	39
	それ以外の北海道	19	21	31	71
	東北	17	13	11	41
	関東	18	17	11	46
合　計		70	56	71	197



3．函館の伝統的建造物保存地区

函館の伝統的建造物群保存地区の認知度は、「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」82人(40.6%)、「歴史的町並みであることは知っていた」74人(36.6%)、「知らなかった」46人(22.8%)。４割が伝統的建造物群保存地区であることを知っている。

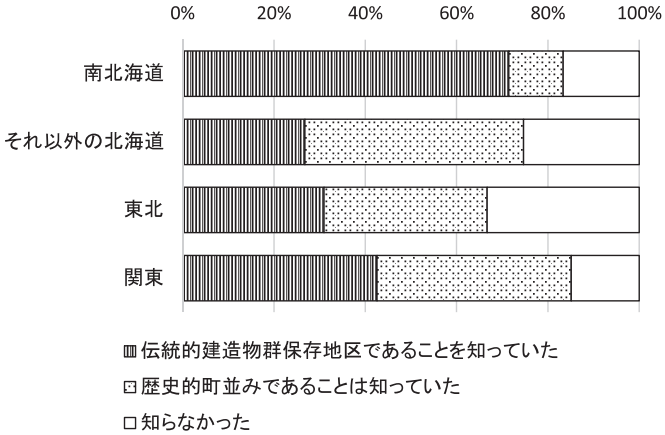
居住地別に見ると、近郊の南北海道が比較的よく知っている**【図表5.4】**。

函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数別に見ると、今回はじめての人で知らなかった人が比較的多い。性別による差は見られない。年代別に見ると若年層で知らなかった人が比較的多くなっている**【図表5.5】**。

函館の伝統的建造物群保存地区を知るために利用したいと思うものは、201人の複数回答で「歴史的町並みのマップ」66人(32.8%)、「歴史や文化のガイドブック」40人(19.9%)、「街歩きガイド」57人(28.5%)、「学習会」６人(3.0%)、「歴史的建物の一般公開」24人（11.9%)、「関心なし」21人（10.4%)。９割が函館の伝統的建造物群保存地区を知りたいと思っており、利用したいと思うものは「歴史的町並みのマップ」、「街歩きガイド」が３割、「歴史や文化のガイドブック」が２割である。

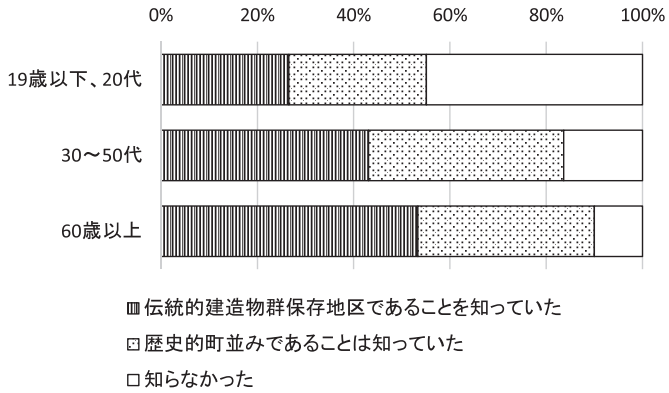
図表5.4　函館の伝統的建造物群保存地区の認知度

		伝統的建造物群保存地区の認知度			合計
		伝統的建造物群保存地区であることを知っていた	歴史的町並みであることは知っていた	知らなかった	
居住地	南北海道	30	5	7	42
	それ以外の北海道	19	34	18	71
	東北	13	15	14	42
	関東	20	20	7	47
合　計		82	74	46	202



図表5.5　年代別、函館の伝統的建造物群保存地区の認知度

		函館の伝統的建造物群保存地区の認知度			合計
		伝統的建造物群保存地区であることを知っていた	歴史的町並みであることは知っていた	知らなかった	
年代	19歳以下、20代	30	5	7	42
	30～50代	19	34	18	71
	60歳以上	13	15	14	42
合　計		82	74	46	202



居住地別に見ると、それ以外の北海道で「街歩きガイド」が多くなっている**【図表5.6】**。

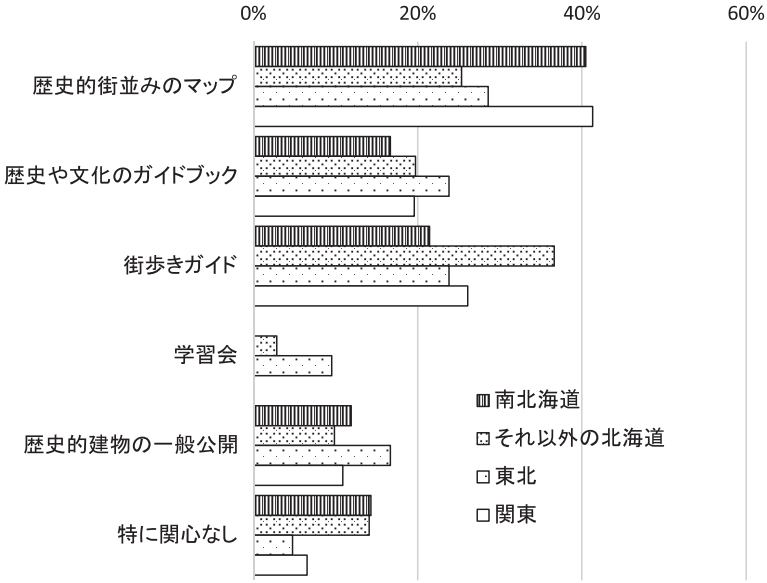
函館の伝統的建造物群保存地区の認知度によって見ると、「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」人で、「歴史的町並みのマップ」、「街歩きガイド」、「学習会」が多くなっていた。性別、年代、函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数による差は見られなかった。

函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動で参加したいと思うものは、197人の複数回答で「寄付」31人(15.7%)、「チャリティイベントに参加」13人(6.6%)、「草かり・清掃ボランティア」20人(10.2%)、「建物修復ボランティア」５人(2.5%)、「観光ボランティア」20人(10.2%)、「歴史的建物で催物をする」31人(15.7%)、「歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する」９人(4.6%)、「特にない」74人(37.6%)。６割が函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動に参加したいと考えており、「寄付」、「歴史的建物で催物をする」が多くなっていた。

居住地別に見ると、南北海道、それ以外の北海道、東北の６～７割、関東４割が函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動に参加した

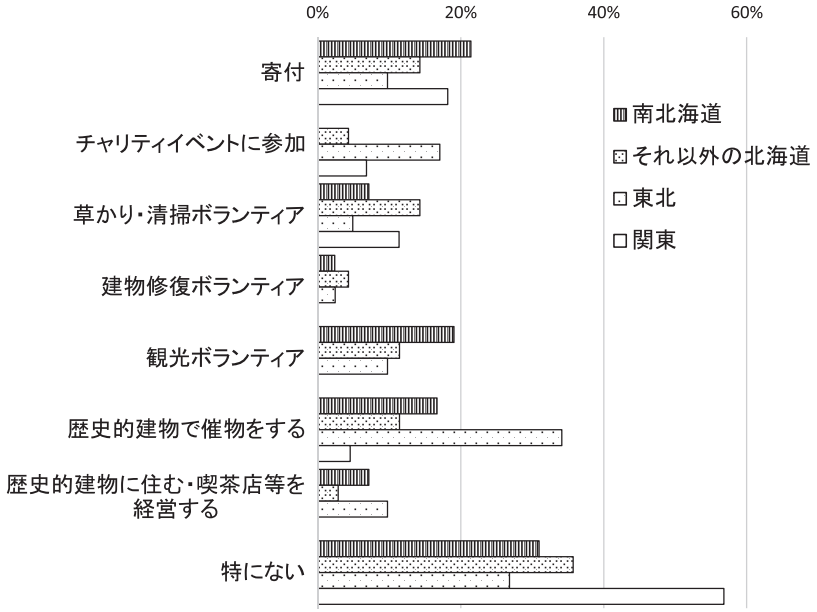
図表5.6　函館の伝統的建造物群保存地区を知るために利用したいもの

		函館の伝統的建造物群保存地区を知るために利用したいもの					
		歴史的街並みのマップ	歴史や文化のガイドブック	街歩きガイド	学習会	歴史的建物の一般公開	特に関心なし
居住地	南北海道（n=42）	17	7	9	0	5	6
	それ以外の北海道（n=71）	18	14	26	2	7	10
	東北（n=42）	12	10	10	4	7	2
	関東（n=46）	19	9	12	0	5	3



図表5.7　函館の伝統的建造物群保存地区を守る活動で参加したいもの

		函館の伝統的建造物群保存地区を守る活動で参加したいもの							
		寄付	チャリティイベントに参加	草かり・清掃ボランティア	建物修復ボランティア	観光ボランティア	歴史的建物で催物をする	歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する	特にない
居住地	南北海道（n=42）	9	0	3	1	8	7	3	13
	それ以外の北海道（n=70）	10	3	10	3	8	8	2	25
	東北（n=41）	4	7	2	1	4	14	4	11
	関東（n=44）	8	3	5	0	0	2	0	25



いと考えている。寄付だけでなく、草かり・清掃ボランティア等は関東でもあり、遠方からも参加希望を持たれていることがわかる。東北で「歴史的建物で催物をする」で多く、「観光ボランティア」は函館近郊の南北海道で比較的多い**【図表5.7】**。

函館の伝統的建造物群保存地区の認知度によって見ると「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」人で、「歴史的建物で催物をする」が比較的多くなっている。

性別、年代、函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数による差は見られない。

「寄付」等、これらの活動に相互の関係は見られない。「寄付」を考えている人が「チャリティイベントに参加」したり、「草かり・清掃ボランティア」に参加したいと思っているわけではない。特定の社会貢献志向の人がいるのではなく、様々な人たちが異なる活動への参加を考えていることがわかる。

４．各地の伝統的建造物群保存地区

各地の伝統的建造物群保存地区に行きたいと思うか尋ねると、「とても思う」93人(47.0％)、「思う」66人(33.3％)、「あまり思わない」23人(11.6％)、「思わない」16人(8.1％)。「とても思う」が半数であり、「思う」と合わせると８割である。

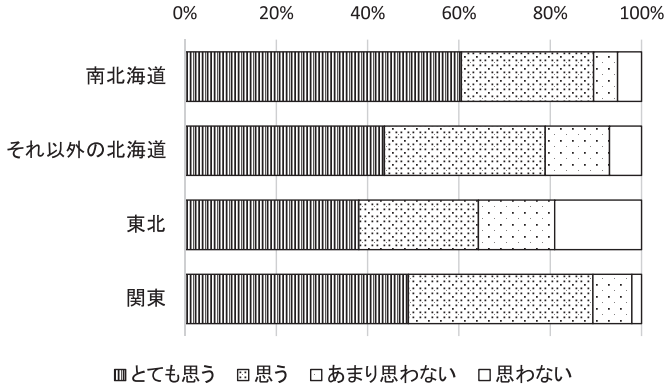
居住地で見ると、南北海道、関東で「とてもそう思う」、「思う」人がやや多くなっている**【図表5.8】**。性別、年代による差は見られない。

函館の伝統的建造物群保存地区との関係を見ると、各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい人で、函館の伝統的建造物群保存地区を「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」人が多くなっていた**【図表5.9】**。各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい人が、函館の伝統的建造物群保存地区を知った上で訪れていることがわかる。

また、各地の伝統的建造物群保存地区に行きたいと思う人で、函館の伝統

図表5.8　各地の伝統的建造物群保存地区への旅行希望

		各地の伝統的建造物保存地区へ行きたいか				合　計
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
居住地	南北海道	23	11	2	2	38
	それ以外の北海道	31	25	10	5	71
	東北	16	11	7	8	42
	関東	23	19	4	1	47
合　計		93	66	23	16	198



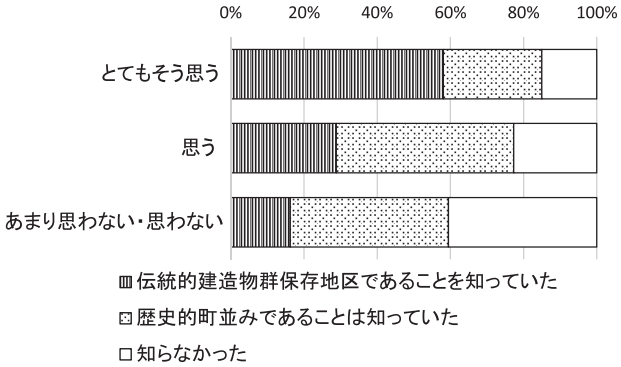
的建造物群保存地区を知るために「歴史的街並みのマップ」、「街歩きガイド」を利用したい人が多くなっていた。各地の歴史的建造物群保存地区に行きたい人は、町並みを知るために「歴史的町並みのマップ」や「街歩きガイド」等を求めていることがわかる。

加えて、各地の伝統的建造物群保存地区に行きたいと思う人で、函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動のうち「寄付」をしたい人が比較的多くなっていた。

各地の伝統的建造物群保存地区に行きたいかで「とても思う」、「思う」人に行きたい目的を尋ねると、159人の複数回答で「名所旧跡めぐり」58人

図表5.9　各地の伝統的建造物群保存地区への旅行希望と函館の伝統的建造物群保存地区の認知度

		函館の伝統的建造物群保存地区の認知度			合　計
		伝統的建造物群保存地区であることを知っていた	歴史的町並みであることは知っていた	知らなかった	
各地の伝統的建造物保存地区に行きたいか	とてもそう思う	54	25	14	93
	思う	19	32	15	66
	あまり思わない・思わない	6	16	15	37
合　計		79	73	44	196



(36.5%)、「レトロな雑貨店」43人(26.9%)、「古民家喫茶やレストラン」31人(19.5%)、「景観が保たれた町の散策」49人(30.8%)。「名所旧跡めぐり」、「景観が保たれた町の散策」、「レトロな雑貨店」の順である。

居住地で見ると、レトロな雑貨店は関東で少ない**【図表5.10】**。

男女別では、「レトロな雑貨店」は女性の方が多くなっていた。年代別に見ると「名所旧跡めぐり」は年配者で多くなっていた。

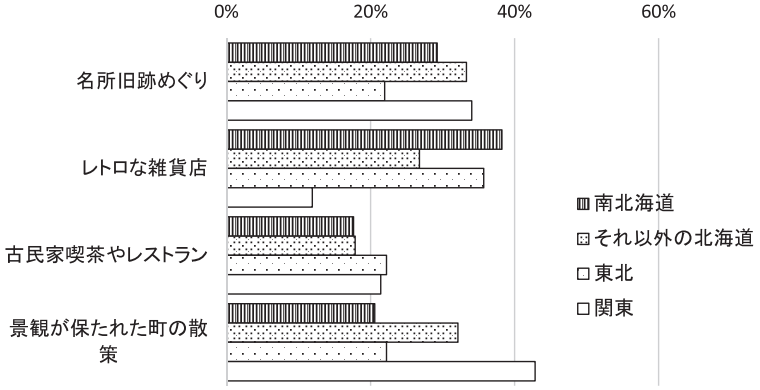
函館の伝統的建造物群保存地区との関係を見ると、「名所旧跡めぐり」が目的の人で函館の伝統的建造物群保存地区を「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」人が多く、函館の伝統的建造物群保存地区を知るために

「歴史的町並みのマップ」を利用したい人が多くなっていた。「レトロな雑貨店」が目的の人で函館の伝統的建造物保存地区を知るために「歴史的建物の一般公開」を求めている人が多くなっていた。「古民家喫茶やレストラン」が目的の人で函館の伝統的建造物群保存地区を知るために「歴史的街並みのマップ」を利用したい人が多くなっていた。「景観が保たれた町の散策」が目的の人で函館の伝統的建造物群保存地区が「伝統的建造物群保存地区であることを知っていた」人が多く、函館の伝統的建造物群保存地区を知るために「歴史的街並みのマップ」を利用したい人が多くなっていた。

これまでに各地の歴史的町並みでしたことがあるボランティア等は、199人

図表5.10　各地の伝統的建造物群保存地区の旅行目的

		各地の伝統的建造物群保存地区の旅行目的				合　計
		名所旧跡めぐり	レトロな雑貨店	古民家喫茶やレストラン	景観が保たれた町の散策	
居住地	南北海道（n=41）	12	13	6	7	34
	それ以外の北海道（n=72）	24	15	10	18	56
	東北（n=41）	9	10	6	6	27
	関東（n=47）	16	5	9	18	42



の複数回答で「寄付」27人(13.6％)、「チャリティイベントに参加」９人(4.5％)、「草かり・清掃ボランティア」15人(7.6％)、「建物修復ボランティア」８人(4.0％)、「観光ボランティア」18人(9.0％)、「歴史的建物で催物をする」６人(3.0％)、「歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する」10人(5.0％)、「特にない」105人(52.8％)。半数近くの人が何らかのボランティア等を行ったことがあり、寄付、観光ボランティアがそれぞれ１割であった。

居住地であまり差は見られない**【図表5.11】**。

性別による差は見られない。年代別に見ると「歴史的建物で催物をする」は若年層で比較的多く、60歳以上で「特にない」が多くなっている。

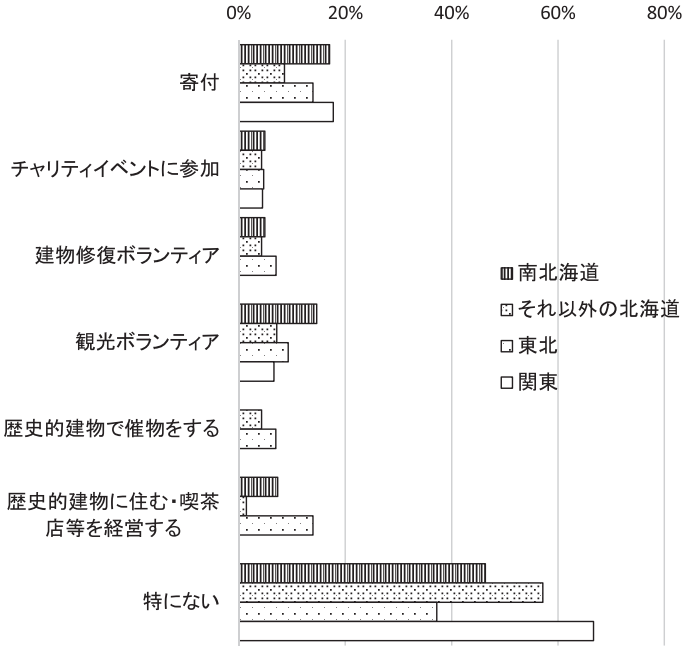
各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい人で、「寄付」が多く、「特にない」が少なくなっている。

各地の伝統的建造物群保存地区の旅行目的が「レトロな雑貨店」の人で、「草かり・清掃ボランティア」、「建物修復ボランティア」、「歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する」が比較的多くなっている。

先述した函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動で参加したいと思うものとの関係を見ると、各地の伝統的建造物群保存地区で「寄付」をしたことがある人の半数近く(26人のうち12人)は函館でも寄付をしたいと考えており、1/3 は函館で草かり・清掃ボランティア(15人のうち５人)、観光ボランティア(17人のうち６人)をしたいと考えている。各地の伝統的建造物群保存地区で「チャリティイベントに参加」したことがある８人のうち４人は函館でもチャリティイベントに参加したいと考えている。各地の伝統的建造物群保存地区で「建物修復ボランティア」をしたことがある８人のうち４人は函館で観光ボランティアをしたいと考えている。各地の伝統的建造物群保存地区で「歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する」10人のうち３人は函館で観光ボランティアをしたいと考えており、４人は函館の歴史的建物で催物をしたいと考えている。これらの人は必ずしも函館近郊ではなく、遠方からボランティア等に参加したいと考えている。各地の伝統的建造物群保

図表5.11　各地の伝統的建造物群保存地区でしたことがあるボランティア

		これまでに各地の伝統的建造物群保存地区でしたことがあるボランティア等						
		寄付	チャリティイベントに参加	建物修復ボランティア	観光ボランティア	歴史的建物で催物をする	歴史的建物に住む・喫茶店等を経営する	特にない
居住地	南北海道（n=41）	7	2	2	6	0	3	19
	それ以外の北海道（n=70）	6	3	3	5	3	1	40
	東北（n=43）	6	2	3	4	3	6	16
	関東（n=45）	8	2	0	3	0	0	30



存地区で「草かり・清掃ボランティア」をしたことがある人の1/3(15人のうち５人）は函館の歴史的建物で催物をしたいと考えている。各地の伝統的建造物群保存地区で歴史的街並みを守る活動をしたことがある人は、函館でも類似の活動をしたいと考えていることがわかる。

５．旧函館区公会堂の一層の活用に向けて

函館の伝統的建造物群保存地区にある旧函館区公会堂で利用したものは、147人の複数回答で「外見のみ見学」45人(30.6％)、「建物に入って見学」76人(51.7％)、「衣装を借りて写真撮影」14人(9.5％)、「売店」14人(9.5％)、「ミニコンサート」４人(2.7％)、「行っていない」27人(18.4％)。８割が訪れており、半数が入館している。入館しなかった理由は、仕事だった、関心がなかった等であった。

居住地別に見ると、関東で「建物に入って見学」が少なくなっていた**【図表5.12】**。

性別では「衣装を借りて写真撮影」は女性の方が多かった。年代別に見ると、若年層の方が「建物に入って見学」していた**【図表5.13】**。

函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数によって差は見られない。函館の伝統的建造物群保存地区の認知度によって差は見られない。

各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい人で、旧函館区公開堂に「行っていない」人が少ない。また、各地の伝統的建造物群保存地区にあまり行きたくない人で「売店」に行った人が多い。ツアーやグループで訪れて、関心がないために売店等で時間をつぶしている様子がわかる。

各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい目的が「名所旧跡めぐり」の人で、逆に旧函館区公開堂を「外観のみ見学」ですませている人が比較的多い。名所旧跡めぐりに関心がある人に、旧函館区公会堂は外観のみが注目されているようである。

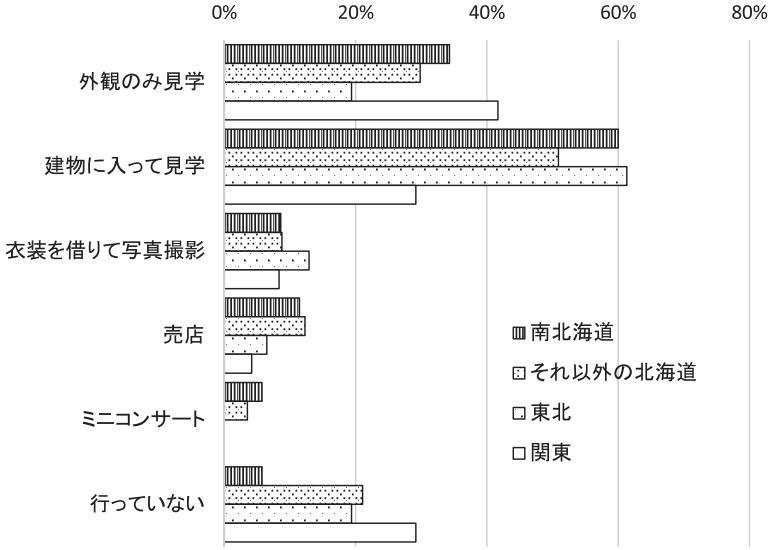
また、各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい目的が「景観が保たれた

町の散策」の人に、旧函館区公会堂の「売店」が利用されていた。散策を目的とする人には、売店と合わせて立ち寄る先として利用されていることがわかる。

旧函館区公会堂のリニューアルに向けて、あれば良いと思うものを尋ねたところ、146人の複数回答で「カフェ付きの売店」40人(27.4%)、「有名料理

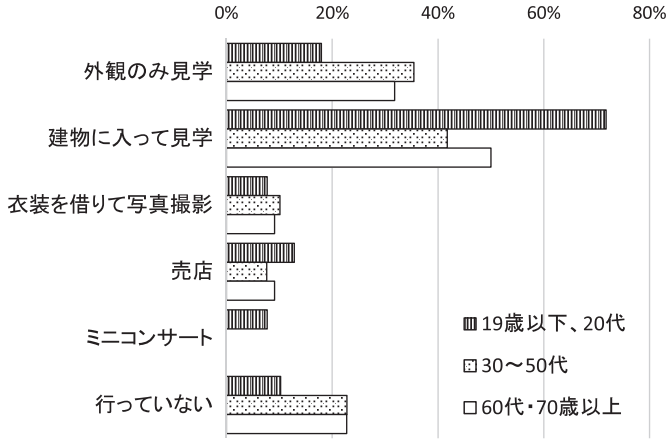
図表5.12　旧函館区公会堂で利用したもの

		各地の伝統的建造物群保存地区の旅行目的					
		外観のみ見学	建物に入って見学	衣装を借りて写真撮影	売　店	ミニコンサート	行っていない
居住地	南北海道(n=35)	12	21	3	4	2	2
	それ以外の北海道(n=57)	17	29	5	7	2	12
	東北(n=31)	6	19	4	2	0	6
	関東(n=24)	10	7	2	1	0	7



図表5.13　年代別、旧函館区公会堂で利用したもの

		旧函館区公開堂で利用したもの					
		外観のみ見学	建物に入って見学	衣装を借りて写真撮影	売　店	ミニコンサート	行っていない
年代	19歳以下、20代（n=39）	7	28	3	5	3	4
	30～50代（n=79）	28	33	8	6	0	18
	60代・70歳以上（n=22）	7	11	2	2	0	5



店と提携した食事の提供」26人（17.8％）、「会議や結婚式開催等の貸室」10人（6.8％）、「事前予約による宿泊」11人（7.5％）、「バラ園等の庭園」22人（15.1％）、「礼服での旗の掲揚等の日課の公開」10人（6.8％）、「特にない」29人（19.9％）。「カフェ付きの売店」、「有名料理店と提携した食事の提供」、「バラ園等の庭園」の順である。

居住地別に見ると「カフェ付きの売店」が東北で少なく、「バラ園等の庭園」が関東で少なくなっている**【図表5.14】**。

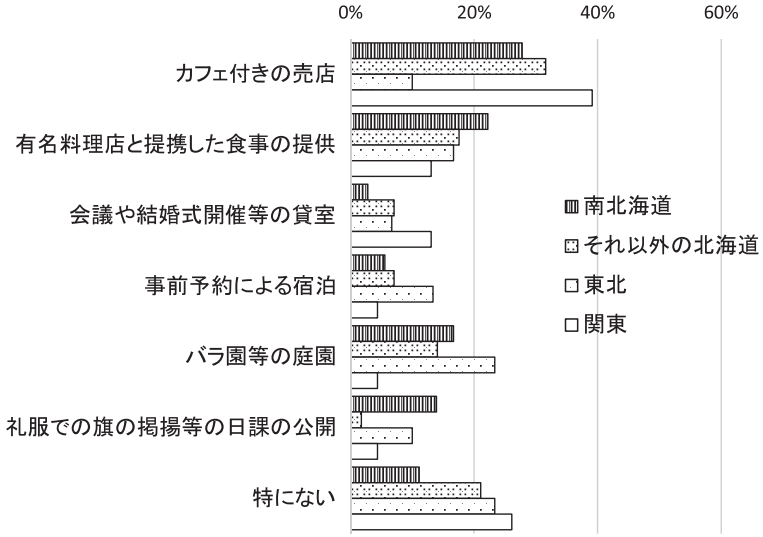
性別、年代、函館の伝統的建造物群保存地区にこれまでに来た回数別によ

る差は見られなかった。

旧函館区公会堂に入館した人で「礼服での旗の掲揚等の日課の公開」が比較的多くなっていた。逆に外観のみ見学した人で「カフェ付きの売店」が多くなっていた。

図表5.14　旧函館区公会堂にあれば良いと思うもの

		旧函館区公会堂にあれば良いと思うもの							合計
		カフェ付きの売店	有名料理店と提携した食事の提供	会議や結婚式開催等の貸室	事前予約による宿泊	バラ園等の庭園	礼服での旗の掲揚等の日課の公開	特にない	
居住地	南北海道(n=36)	10	8	1	2	6	5	4	36
	それ以外の北海道(n=57)	18	10	4	4	8	1	12	57
	東北(n=30)	3	5	2	4	7	3	7	30
	関東(n=23)	9	3	3	1	1	1	6	23



各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい人で「カフェ付きの売店」、「バラ園等の庭園」が多くなっていた。

各地の伝統的建造物群保存地区に行きたい理由が「古民家喫茶やレストラン」の人で、「事前予約による宿泊」が比較的多くなっていた。「景観が保たれた町の散策」の人で「会議や結婚式開催等の貸室」が比較的多くなっていた。

単なる性別や年代に限らず、伝統的建造物群保存地区への関心等によって、多様な希望が出されている。

６．まとめ

函館の伝統的建造物群保存地区は多くの観光客に知られていた。６割が函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動に参加したいと考えている。参加を希望する内容は「寄付」や「歴史的建物での催物」が比較的多いが、遠方からでも「草かり・清掃ボランティア」等がある。他の歴史的町並みでボランティアをしたことがある人も半数近くおり、希望者やボランティア経験者が函館の歴史的町並みを守る活動に参加できる仕組みづくりが求められる。

観光スポットの一つである旧函館区公会堂は８割が訪れているが、建物に入ったのは半数である。リニューアルに向けて、外観のみの見学者はカフェ付きの売店を求めており、売店は現在の伝統的建造物群保存地区の無関心層や「景観が保たれた町の散策」希望者にも利用が期待される。また特に伝統的建造物群保存地区の関心層に「バラ園等の庭園」が求められており、「古民家喫茶・レストラン」希望者に「事前予約による宿泊」、現在の旧函館区公会堂の入館者に「礼服での旗の掲揚等の日課の公開」があれば良いと思われている等、多様なニーズがある。入館者数アップとともに、長期滞在繰り返し利用に向けて様々な展開の可能性が考えられる。

VI. まとめ

バル街のようなにぎわいを取り戻すための市民活動は成果をあげているものの、人口減少による空き地・空き家問題は解決していない。現在の居住者が暮らし続けられるように支援するとともに、新たな長期滞在利用者の受け入れを図っていくことが必要である。

函館の高齢者は伝統的建造物群保存地区の町並みが修復され、観光客や店の数が増えていると肯定的な評価をしており、買物や交通の利便性は変わっておらず、暮らしも維持されている。居住者に比較的多い「道路・公園等の整備」を求める声は、函館市民の中に歴史的町並みを守る市民活動に参加したいのにできていない人たちが一定程度おり、この人たちの手を借りて自ら解決が図られていくことが期待される。

住民（函館の高齢者）と観光客の意識を比べると、住民の景観条例の認知度だけでなく、観光客の伝統的建造物群保存地区の認知度は比較的高く、歴史的町並みを守る活動への参加を望む声がある【表6.1】。寄付や歴史的建物での催物等、一時的な滞在による内容が多いが、ボランティアを含めた長期滞在を促し、観光客とともに解決を図っていく仕組みづくりが求められる。

表6.1　住民と観光客の意識

	住民の意識	観光客の意識
函館の伝統的建造物群保存地区等の認知度	景観条例の認知度 6割が知っている	伝統的建造物群保存地区の認知度　4割が知っている
函館の伝統的建造物群保存地区の歴史的町並みを守る活動への参加	現在参加している　数％ （道路掃除等） 参加したい　35％	参加したい　6割 寄付、歴史的建物での催物が多い
旧函館区公会堂の一層の活用に向けてあれば良いと思うもの	カフェ付きの売店　5割 有名料理店と提携した食事の提供　3割 バラ園等の庭園　3割	カフェ付きの売店　3割 有名料理店と提携した食事の提供　2割 バラ園等の庭園　15％

観光スポットの一つである旧函館区公会堂の修繕にあたっては、住民と観光客の意向が似ており、カフェ付きの売店、有名料理店と提携した食事の提供、バラ園等の庭園等が、住民の普段使いとともに、観光客が利用する場になっていくことが期待される**【表6.1】**。

文献

１）山本真也：コラム59　姿をかえる旧市街地　西部地区　地下の高騰と構想マンション問題、函館市史通説編第４巻、pp.895-899、函館市中央図書館、2002年

２）富樫雅行建設設計事務所：和田商店リノベーション、＜ http://togashimasayuki.info/works/%e5%92%8c%e7%94%b0%e5%95%86%e5%ba%97%e3%83%aa%e3%83%8e%e3%83%99%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%b3/、2016. 3. 26確認＞

３）函館市都市建設部都市デザイン課：はこだての歴史的街並み　パンフレット、2013年

４）函館市都市建設部まちづくり景観課：函館市の都市景観行政、2015年

５）函館市：函館市の人口【住民基本台帳人口】2002年１月～2016年１月

６）空き家18戸解体見通し　西部地区、函館新聞、2013年１月28日

７）ＮＰＯ法人はこだて街なかプロジェクト：函館市西部地区における空き家活用について、廃屋・空き家対策セミナー　平成23年度資料、後志総合振興局小樽建設管理部建設行政室建設指導課、2012年

８）函館市教育委員会：函館市需要文化財旧函館区公会堂　平成26年度指定管理者業務実績シート、2015年

９）函館市企画部：旧ロシア領事館の活用に向けたサウンディング型市場調査　調査結果報告書、＜ http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014040300110/files/russia_sr_report201503.pdf、2016. 3. 26確認＞、2015年

10）函館市公民館活性化ネットワーク：函館市公民館改革、＜ http://hkdkominkan.seesaa.net/article/16244628.html#more、2016. 3. 26確認＞

11）山本真也：函館学ブックレット16　函館の都市景観とまちづくり、コンソーシアム函館、2007年

12）国土交通省都市・地域整備局：まち再生事例データベース　函館市（北海道）事例002歴史的風土を守り生かすまちづくり、＜ http://www.mlit.go.jp/crd/city/mint/htm_doc/pdf/002hakodate1.pdf、2016. 3. 26確認＞

13）ＮＰＯはこだて街なかプロジェクト：活動内容紹介、＜ http://www.h-machi.com/content02.html、3016. 3. 26確認＞

14）箱バル不動産：函館移住計画2016、＜ http://hakobar.com/2016/03/24/%e5%87%bd%e9%a4%a8%e7%a7%bb%e4%bd%8f%e8%a8%88%e7%94%bb2016/、2016. 3. 27確認＞、2016年
15）函館からトラスト：公益信託函館色彩まちづくり基金とは、＜ http://www.h-nisshou.com/kara/koueki.htm、2016. 3. 26確認＞
16）伝統的地域の活性化活動を担う　－函館市　特定非営利活動法人・元町倶楽部、開発こうほう466、北海道開発協会、2002年
17）大橋美幸：閑散期における観光に関する研究　－定期観光バス及び３つのイベントの調査、函大商学論究47（２）、pp.81-128、2015年
18）2013はこだてクリスマスファンタジー実行委員会第２回資料、2013年
19）はこだて国際民俗芸術祭：過去を知る窓、未来への扉、＜ http://wmdf.org/archive.html、2016.　3.　26確認＞
20）株式会社ヒトココチ：はこだて国際民俗芸術祭、＜ http://hitococochi.jp/?mode=f5、2016. 3. 26確認＞
21）松下元則：函館西部地区バル街の集客メカニズム、食生活科学・文化及び環境に関する研究助成　研究紀要24、pp.191-199、2011年
22）長坂康之、斎藤一成：100円商店街・バル・まちゼミ　－お店が儲かるまちづくり、学芸出版社、2012年
23）元町 FooD 祭り：元町 FooD 祭り「もしも駅弁編」、＜ https://www.facebook.com/motomachifood/、2016. 3. 26確認＞
24）函館市公式観光情報はこぶら：茶店バー　カフェやまじょう、＜ http://www.hakobura.jp/db/db-food/2012/07/post-246.html、2016. 3. 26確認＞
25）函館市：はこだてフィルムコミッションの概要、＜ http://www.hakodate-fc.com/0100_about.html、2016. 3. 26確認＞
26）函館港イルミナシオン映画祭：函館港イルミナシオン映画祭について、＜ http://hakodate-illumina.com/message、2016. 3. 26確認＞
27）クラウドファンディングプラットフォーム MotionGallery：函館オールロケ作品・映画「函館珈琲」製作応援団募集！函館港イルミナシオン映画祭シナリオ大賞映画化プロジェクト、＜ https://motion-gallery.net/projects/hakodatecoffee、2016. 3. 26確認＞